

ワークショップのご案内

一般社団法人日本箱庭療法学会第36回大会を京都リサーチパーク（京都市中京区）およびZOOM（ハイブリッド）にて開催いたします。今大会は、10名の先生方にワークショップ講師をお引き受けいただくことができました。

ワークショップの形式は、講師に一任しています。コースによって、テーマに即した参加者からの事例提供を募集しています。詳細は各コース（A～J）の案内をご覧ください。

みなさまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

1. ワークショップ概要

日時： 2023年10月28日（土）9:30～12:00（受付開始 9:00）
会場： オンサイト：京都リサーチパーク 1、4号館（京都市中京区中堂寺）
オンライン：ZOOM
講師： （50音順・敬称略）

A	伊藤 良子	（京都大学名誉教授）
B	岩宮 恵子	（島根大学人間科学部）
C	河合 俊雄	（京都大学人と社会の未来研究院）
D	川寄 克哲	（学習院大学）
E	北口 雄一	（北口分析プラクシス）
F	桑原 知子	（放送大学）
G	高石 恭子	（甲南大学）
H	田中 康裕	（京都大学大学院教育学研究科）
I	名取 琢自	（京都文教大学）
J	前川 美行	（東洋英和女学院大学）

受講費：

	A 〔 7月31日までに お申し込みの方 〕	B 〔 8月1日以降 お申し込みの方 〕
会員	6,000円	7,000円
非会員	8,000円	9,000円

**A 参加費での申込受付を
延長しております。**

受講資格： 一般社団法人日本箱庭療法学会正会員。もしくは臨床心理士の有資格者、臨床心理学を学んでいる大学院生、臨床心理学およびその関連領域で実践的な仕事に従事されている方で、心理臨床事例に関する守秘義務を遵守できる方。

2. ワークショップ・コースのご案内

A 分かりにくい箱庭表現—人格障害クライアントの生き辛さの理解に向けて—

講 師: 伊藤 良子（京都大学名誉教授）

内 容: これまで本ワークショップでは、統合失調症・自閉症スペクトラム・心身症等の困難事例の箱庭表現を取り上げてきました。それらは、無機的・表層的ともいえる同じ表現が毎回繰り返される等、多くの神経症のクライアントの表現とは全く異なって、誠に分かりにくいものでありました。しかしながら、このような表現にこそ、クライアントの在り方そのものが現れ出ており、そのクライアントの本質的あり方に接近・理解する大きな助けになるものであったと考えております。今回は、人格障害水準の中年のクライアントの箱庭表現をご提示いただき、本クライアントが長年抱えて来られた生き辛さへの接近を目指したいと思っております。

事例提供者: 中井 陽子氏

B 箱庭表現のなかに見る世代を超えた課題

講 師: 岩宮 恵子（島根大学人間科学部）

内 容: 保護者の精神的な不調や経済的な困窮などから厳しい養育環境にある子どもたちの問題は年々、大きくなっている。周囲が注意深く観察しないとその子の危機に気がつかない場合もある一方で、さまざまな「問題行動」という形をとってSOSを出す子も多い。今回は、苦しい状況に至っていた子が、箱庭という場を得たことで、その子が置かれている状況や、世代を越えて引き継がれている課題などが表現されていったプロセスについて考えていきたい。それとともに、箱庭表現からどれほどのことが読み取れるのかということフロアのみなさんと深めていきたい。

事例提供者: 横川 瑠美奈氏

C 身体疾患と箱庭療法

講 師: 河合 俊雄（京都大学人と社会の未来研究院）

内 容: 心身症、さらに広くとると身体疾患を持つ人の心理療法においては、アレクシサイミアということが言われるように、言語化やイメージ化がむずかしい。その中で箱庭療法は、砂にふれること、アイテムの直接性もあって、身体疾患を持つクライアントに対して有効な場合が多い。身体疾患を持つクライアントへの心理療法的アプローチにおけるむずかしさ、さらには箱庭療法のみずかしさを踏まえつつ、身体疾患を持つクライアントに対する箱庭療法の有効さとその様々な局面を、主に消化器系の問題を持ったクライアントの箱庭の事例から学びたい。

事例提供者: 森本 愛氏

D 河童起源譚が意味するもの—河合隼雄が求めた〈女〉とは何か—

講 師: 川崎 克哲（学習院大学）

内 容: 河童がどのようにして誕生したのかに関して次のような民話が日本各地において見いだされている。「名人大工が請け負った建物を建築するに当たって失敗してしまい、それを大工の嫁あるいは娘が智慧を出して解決する。しかし、女の智慧によって助けられたことを恥じる大工は建物が完成したあと、嫁(娘)を殺害する」

このような民話がどうして河童と関連するかはワークショップにおいて詳述するが、つまりは、

男性がリジッドな構造を造り出すとき、決定的に女性の助けが必要とされるのだが、その構造が成立したときには女性は殺害されてしまうわけである。この構図は心理療法にとって真に重要なものである。この構図の側面が、自我というリジッドな構造(男性的なもの)の成立と闇に沈められる無意識(女性的なもの)という深層心理学派の心の構造モデルに関連している。このように、殺害され闇に葬られた<女性>がどのような存在であり、それとどのようにつながっていくかというテーマは心理療法において中核的なものとなる。ラカン「女は存在しない」と述べているが、河合隼雄は日本の昔話の分析を通して消え去った女性が意志をもつ者として再び現れることを期待した。河合が求めた<女>のひとつの表現型が河童にほかならないのだが、上記のような観点を通して、女、河童、心理療法を検討していきたい。

事例提供者: 飯塚 幸子氏

E イメージによる心理療法に、認知行動療法を対置させる

講 師: 北口 雄一 (北口分析プラクシス)

内 容: 対(対立物)との関係を生きるのが、ユング心理学のあり方とも言える。イメージによる心理療法は、意識(が望むこと)以上に、イメージに働きかけ、その自律的な変容にコミットしているが、このように意識に力点が置かれず「こころ」という「自律性」に立脚することの対は、何だろうか。昨今、クライアントから、あるいは医師から認知行動療法を希望されることもあるが、「意識」が望むことに力点を置き、技法を用いて問題を「操作的に」変化させることを目指す認知行動療法のあり方は、イメージによる心理療法の対であろう。対との関係は、どうすればいいのだろうか。われわれもまた、日々の心理療法で、クライアントの意識が望むことを聞き、操作的に変えようと、知らず知らずのうちに認知行動療法を行っているし、それが必ずしもわるいわけでもない。今回は、講師が具体的な例も上げながら、この対の視点から、われわれがイメージによる心理療法として何をしているのかを、逆に浮き彫りにしたい。

事例提供者: 講師自身の事例を提供します。

F 「プロセス」と「作品」

講 師: 桑原 知子 (放送大学)

内 容: 箱庭療法において、カメラで保存されるのは、あるいは、学会などで発表されるのは、できあがった「作品」が多いことと思う。しかし、箱庭療法の本質は、その「プロセス」にある。本ワークショップでは、この「プロセス」と「作品」について考えてみたい。また、このことは心理臨床においても重要なテーマだと考えられる。私たちが心理療法を行う場合、何を目標しているのだろうか。「よい」「終結」という、ある種の「作品」なのだろうか。心の悩みや傷に、「終わり」はあるのか、ということも含めて、共に考えてみたい。

事例提供者: 受講者の中から事例提供者を募集します。テーマに触発されるケースがあれば、ご発表ください。どんな場所で行われたものでも、かまいません。

G 学生相談、あるいは思春期・青年期臨床における表現技法の実践的活用

講 師: 高石 恭子 (甲南大学)

内 容: 近年、学生相談をはじめスクールカウンセリングなどの教育臨床現場では、チームでの支援や環境調整の視点が重視されるようになり、個々のクライアントの内面の変容や成長にじっくりと付き添う関わりをもつことや、その意義についての共通理解を得ることに、いっそうの工夫が求められる現状がある。本コースでは、そういった現場において実際に描画や箱庭療法など

のイメージを扱う技法を導入した事例をもとに、その導入のコツ、現代の青年期の人々にとっての意味、成長や回復を促進する効果、またそれらを数量的なエビデンスではない方法でどう現場に伝えうるかということも含めて、参加者のみなさまと共に考えてみたい。

事例提供者： 受講者の中から事例提供者を募集します。

H 心理療法における交互色彩分割法の活用とその理解

講師： 田中 康裕（京都大学大学院教育学研究科）

内容：交互色彩分割法は、かかわりをもつのが難しい慢性統合失調症患者への治療的アプローチの一つとして開発された技法である。空間分割段階と彩色段階からなる施行法は簡便で、幅広い年齢・病態に適用可能だが、双方の段階においてクライアントとセラピストとの間に「やりとり」が生じるため、そこからセラピーのなかに思わぬ展開が見られたり、そこにクライアントの思わぬ可能性が見出せたりする。このワークショップでは、長谷川病院の公文佳枝氏に統合失調症と診断された女性の事例を発表していただき、このような「交互色彩分割法の活用とその理解」について考えたい。

事例提供者： 公文 佳枝氏

I 箱庭／夢イメージ系列のコンテキストを探る

講師： 名取 琢自（京都文教大学）

内容：ユングは『心理学と錬金術』（1944/1951/1976）の事例研究部分で、夢の系列全体を通して「コンテキスト」を見出すことを推奨している。

「まず最初はどんな夢でも夢のどんな部分でも未知であるという前提に立ち、コンテキストを知った後で初めて解釈を試みるということ、すなわち、コンテキストの確認によって見出された意味を夢テキストにあてはめ、それによってテキストがなめらかに読めるようになったか、ないしはそれによってテキストが充分納得のいく意味を獲得したか、これを試してみるということが、いついかなる場合でも原則であると考えておかなければならない。しかしこうして獲得される意味が、予め懐いていた何らかの主観的期待に一致するのではないかなどと考えることは絶対に許されない。」（『心理学と錬金術』I, p.71）

ここでいう「コンテキスト」は具体的にどのような作業によって見出されるのであろうか。本ワークショップでは、この視点にそって箱庭作品や夢などのイメージの系列からコンテキストを抽出・発見し、事例の理解を深める方法を探りたい。

事例提供者： 箱庭、夢、描画などイメージ表現の系列を含む事例を募集します。

J 「戦闘」表現とからだについて

講師： 前川 美行（東洋英和女学院大学）

内容：人はなぜ闘うのだろうか。自分の命よりも大事なものがあるから闘えるのだろうか。そして、生き残ることが勝利であり、死ぬことは負けることなんだろうか。子どものプレイや箱庭では、闘いは日常茶飯事である。夢の中でも闘いや死は頻りに現れるテーマである。ゲームもある意味闘いだ。一方で、一昔前、女子大生の夢はほとんど闘わず逃げ続けていた。その頃、中国や韓国の留学生に聞くと、闘わないで逃げることは考えられないと言っていた。今、女子大生や若い女性の夢には、銃を撃ち刀を振り下ろすだけではなく、素手で殴る、蹴ることも増えたと実感する。また、この3年ほど私たちはウイルスとも闘ってきた。共存と言いつつ、一人の人にとっては生死をかけた闘いである。闘いにはからだに関連する。闘いの箱庭、闘わない箱庭、

そして子どもの闘い表現に注目して、闘いについて考えてみたい。講師の自験例と提供者による事例を取り上げる。

事例提供者：竹下 由茉氏

3. ワークショップの受講申し込み

ワークショップの参加申込は、別紙「第1号通信」を参考に以下の要領でお申し込みください。

1. 別紙 第1号通信3頁の「2. 参加の申し込み・参加費」と同様に右記 QR コードよりお申し込みいただけます。ご希望のワークショップを選択し、お申し込みください。

先着順での受付となりますため、定員になったワークショップから締め切らせていただきます。また、会場の定員数により、ご希望のワークショップにご参加いただけない場合もございますので、あらかじめご了承ください。



2. 自動返信メールにて参加費の合計金額をご確認いただき、2週間以内に下記口座へ諸費用をお振り込みください。お振り込みの際には、必ず参加者ご本人の名義でお手続きいただき、自動返信メール内に記載されている【受付番号】をお名前の前に必ずご記入の上、お振り込みください（例：00001 ハコ ニワタロウ）。

申し込みと諸費用のお振り込みおよび秘密保持に関する誓約書の提出が当方で確認でき次第、参加手続きが完了となります。なお、振り込まれた諸費用は、事情の有無に関わらず返金いたしませんのでご了承ください。

3. 事例発表内容に関して「秘密保持に関する誓約書」の提出をお願いしております。誓約書をご提出いただけない場合は、大会への参加をお断りすることになります。また、誓約内容に違反された場合、大会参加資格の停止等の措置をとらせていただきますこと、あらかじめご了承ください。

誓約書の提出方法は、参加申込完了後に誓約書フォームへの入力画面に移動いたしますので、内容をご確認いただき、必要事項をご記入ください。参加申込時に提出いただかなかった場合は、右記の「QR コード」の入力フォームにご記入いただき、提出をお願いいたします。



4. 申込者には、9月初旬にワークショップ概要（研究発表参加の方には大会論文集）と名札（オンサイト参加者のみ）を送付します。オンサイト参加者は、名札を必ず持参し、直接会場へお越しください。受付は必要ありません。

5. 「当日参加」受付はございませんので、期間内にお申し込みの上、ご参加ください。

<ゆうちょ銀行から振り込まれる場合>

口座名：00920-0-310345

加入者名：一般社団法人日本箱庭療法学会年次大会

<他の金融機関から振り込まれる場合>

銀行名：ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：099 預金種目：当座 店名：〇九九店（ゼロキユウキユウ店）

口座番号：0310345

4. ワークショップの事例発表申し込み

1. 希望するワークショップ・コースが事例を募集している場合にのみお申し込みいただけます。なお、事例発表は原則として会員に限ります。
2. 「3. ワークショップの受講申し込み」と同様の申込みフォームよりお申し込みいただけます。「ワークショップ事例発表」のチェックボックスで「発表する」を選択いただき、発表予定題目、共同発表者を入力し、**2023年4月20日(木)**までにお申し込みください。
3. 事例発表の申し込みが多数あった場合は、講師と相談のうえ選択しますので、ご了承ください。

5. 研修ポイントについて

ワークショップ、シンポジウムの両方に参加した方には、日本臨床心理士資格認定協会「臨床心理士教育・研修規程別項」第2条(3)「本協会が認める関連学会での諸活動への参加」の通り、ポイントが付与されます。詳細は、第1号通信6頁の「4.研修ポイントについて」をご参照ください。

ワークショップI(講師:名取琢自先生)に参加された方はISST(国際箱庭療法学会)正会員になるために必要な「理論的トレーニング100時間」のうちの参加時間数として認定されます。ご希望の方は研修終了時に参加証明書をお申し込み下さい。ISST(国際箱庭療法学会)は世界の箱庭療法家が集い、学び合う場になっています。日本の箱庭療法への期待と関心も高まっています。皆様のご参加をお待ちしています。

一般社団法人日本箱庭療法学会 第36回大会ワークショップに関するお問い合わせ・連絡先

■一般社団法人日本箱庭療法学会 第36回大会準備委員会

E-mail: congress@sandplay.jp

住所: 〒541-0047 大阪市中央区淡路町4-3-6 (有)新元社内

*お問い合わせやご連絡はなるべくEメールでお願いいたします。